

令和4年

令和4年

2月26日(土) ～ 4月4日(月)

北前船で栄えたころ、酒田の商人が買い求めたとされる
豪華な雛人形を中心に、商人たちがたしなんだ
風流な趣味を紹介します。

酒田雛街道

雛と風流の世界

酒田商人のたしなみ

田中家の古今雛

〈休館日〉 2/28(月)、3/7(月)、3/14(月)、
3/22(火)、3/28(月)

〈開館時間〉 午前9時～午後4時30分

〈入館料〉 一般200円、高校生90円、
小中学生50円
(土・日曜は市内小中学生無料)

酒田市立資料館

〒998-0046 山形県酒田市一番町8-16

TEL・FAX0234-24-6544

✉ sakata-city-museum@city.sakata.yamagata.jp



雛と風流の世界 酒田商人のたしなみ



橋本家の古今雛



古今雛

〈展示するお雛様の一部をご紹介〉

橋本家の古今雛

目元が弓なりになっており、京都製らしい顔立ちのお雛様です。女雛の冠は大きく高さもあり、一番上に鳳凰が飾られていて豪華な作りです。細かな細工の雛道具もご注目ください。

田中家の古今雛

近年寄贈されたお雛様です。この雛人形を保存していた木箱には、西廻り航路での交易をうかがわせる墨書きがあります。(表面写真)

古今雛

2018年、エルミタージュ美術館(ロシア・サンクトペテルブルク)に出張展示されました。くっきりした目鼻立ちが魅力的なお雛様です。

河村瑞賢かわむらざいけんによって西廻り航路まわが整備されると、酒田港には津々浦々の品が入ってくるようになりました。港近くには廻船問屋かいせんが立ち並び、商人の町として大いににぎわいました。商売が繁盛し、富を蓄えた酒田商人たちは、江戸や上方の品物や文化を受け入れて、雅で風流な趣味を楽しみ、また発展させてきました。俳諧、茶の湯、生け花などは旦那衆に人気のたしなみでした。

海運で江戸や上方から酒田港へ運ばれたものとして親しまれている雛人形もまた、酒田商人が買い求め、現在まで受け継がれている品です。豪商たちが軒を連ねていたころ、庶民たちは商家に飾られる贅を尽くした雛人形を見て回りました。財力のある商人が多いた酒田らしい風習、「雛めぐり」として日本遺産「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」の構成文化財になっています。

毎年恒例の享保雛、古今雛、芥子雛などの雛とともに、今年は風流な趣味にちなんだ品々を展示します。一足先に酒田へ春の訪れを告げる資料館のひなまつりをぜひお楽しみください。



掛軸「月の窓」/常世田長翠筆

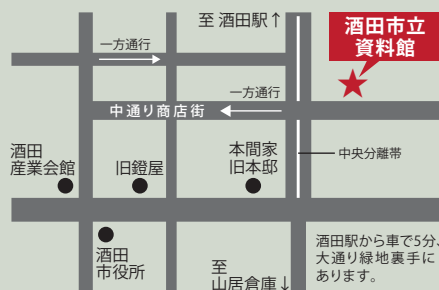


竹細工 花器「月の雫」
島中鳳山作

竹細工 茶杓
島中鳳山作

掛軸「歙」
阿部李溪画、武長百合坊賛

酒田市立資料館



〈アクセス〉

- ◆JR酒田駅から庄内交通バス(約9分)「大通り商店街」下車徒歩1分
- ◆庄内空港からシャトルバス(約30分)「中町」下車徒歩5分
- ◆日本海東北自動車道「酒田中央IC」より約10分(駐車場あり)

次回企画展予告

西廻り航路開設350年
酒田湊と
河村瑞賢(仮)

令和4年4月9日(土)
～6月20日(月)